

もしもの被害に備えて知っておこう

6月1日～30日は土砂災害防止月間

6月から10月の間は、前線や台風などの影響により雨量が増えるため、土砂災害や河川の増水による、洪水・冠水が発生しやすい時期です。こうした自然災害による被害を最小限に抑えるためには正しい知識を身に付け、日頃から準備することが最大の予防策となります。土砂災害や洪水・冠水から、大切な命や財産を守るために必要な情報・知識を紹介します。

問い合わせ 危機管理課防災対策係(☎35-0923)、建設課管理係(☎35-0902)

■土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)で、危険度をリアルタイムに確認できます



▲気象庁
土砂キキクル

色が持つ意味	状況	住民等の行動の例※1	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル
災害切迫 大雨特別警報(土砂災害)の指標に用いる基準に実況で到達	命に危険が及ぶ土砂災害が切迫。土砂災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立退き避難がかえって危険な場合) 命の危険 直ちに身の安全を確保!	緊急安全確保※2	5相当
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
危険 2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況。	土砂災害警戒区域等の外へ避難する。	避難指示	4相当
警戒 2時間先までに警戒基準に到達すると予想	土砂災害への警戒が必要な状況。	高齢者等は土砂災害警戒区域等の外へ避難する。 高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする。	高齢者等避難	3相当
注意 2時間先までに注意基準に到達すると予想	土砂災害への注意が必要な状況。	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	2相当
今後の情報等に留意	—	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

※1 土砂キキクルに関わらず、自治体から避難情報が発令された場合には速やかに避難行動をとりましょう。

※2 災害が発生・切迫している状況を市町村が必ず把握することができるとは限らないことなどから、緊急安全確保は必ず発令される情報ではありません。また、警戒レベル5相当情報が出たからといって、必ず緊急安全確保が発令されるわけではありません。出典:気象庁

■土砂災害から身を守るために

日頃から土砂災害に対する防災知識を持つことが大切です。「土砂災害がどこで、どのように起こるか」を理解し、非常時に備えましょう。また、自分の暮らす家が土砂災害危険箇所該当するかあらかじめ調べておきましょう。

土砂災害(特別)警戒区域は静岡県砂防課ホームページの「静岡県土砂災害情報マップ」や市ホームページのきくのんマップなどで確認しておきましょう。



▲県土砂災害情報マップ



▲きくのんマップ



▲市防災ハザードマップ

自宅が安全が確保できる場合は、気象情報に留意しつつ自宅で過ごしましょう。

屋外へ出たほうが危険なため、やむを得ず自宅にいることも考えられます。家の中でもより安全な場所を考えておきましょう。



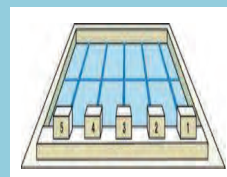
Point

小さな積み重ねで被害を軽減

大雨のときに、お風呂の水を流さずに貯めたままにしておくと、河川への流入が軽減されます。例えば、菊川市の家庭のお風呂で計算すると、およそ380万リットル(25メートルのプールおよそ8面分)の貯水量になります。



一般家庭のお風呂
(200リットル)
×
およそ1万9000世帯



25メートルのプール
(48万リットル)
×
7.9面分